

富士講の信仰を映し出す：
富士山周辺にある清めの水場

富士講は富士山自体の参詣の他にも信仰を表現する方法を生み出しました。そのひとつは、18世紀に成立した「八海巡り」という富士山麓にある8湖への巡礼でした。巡礼者たちは富士山に登る前、あるいは登った後にこれらの湖を巡拝し、水行と呼ばれる心身を清めるために身体の一部または全身を水に浸ける儀式を行いました。八海に数えられる湖の構成は時代により、また書物により異なりましたが、どの構成にも富士五湖と明見湖が含まれていました。研究者のほとんどは、富士講の巡礼者たちは、彼らが開祖として仰いだ長谷川角行（1541?–1646）に倣ってこの慣習を始めたと考えています。

また、富士講信者たちは富士山を中心に据えたより広範な日本各地にも水行の場を求めました。これらの水場はもとの「内八海」に対して「外八海」として知られるようになりました。加えて、19世紀には富士山付近のひとつの村に全ての巡礼地がある「忍野八海」が、より簡便な巡拝の選択肢として確立されました。